

研究センターニュース第75号



特定非営利活動法人
地域と協同の研究センター

巻頭エッセイ

農と深く結びついた食育のあり方を考える

岐阜大学応用生物科学部
准教授 荒井 聡



食育基本法の制定を契機として、各地域において食育活動が多様に取り組みされている。いくつかの量販店でも地産地消コーナーを設置したり、農業体験を組織したりするなど食育活動に取り組んできている。協同組合組織でも各地域の特性を生かし、個性豊かな取組が進んでいる。食育を通じて「豊かな人間性をはぐくむ」ことが基本法の目的であるが、それが農と深くむすびについて、「食料の生産者と消費者との交流等を図ることにより、農山漁村の活性化と我が国の食料自給率の向上に資する」ことも期待されている。

そんななか、「農と深く結びついた食育のあり方を考える」現地研究会（農業・農協問題研究所東海支部主催）が大垣市で12月1日に開催された。主として岐阜県西濃地域で食育活動に関わる団体、行政、研究者等が一堂に会し、それぞれの取組内容や今後の抱負について紹介があった。意見交換・交流の場では、それぞれがかかえる課題を相互連携のなかでクリアできないか、などを検討しあう機会ともなった。

コープぎふでの食育「たべるは楽しい」活動は、「つながる、しゃべる、きく、わかる、つくる」の5つをキーワードとした参加型の活動で、これまで取り組んできた活動を体系化し、組合員家族の食の選択力の向上を側面から応援することを目的としている。その事例として県内産トマトを使ったトマト料理の開発と、夏休み親子クッキングの活動が紹介された。またJAにしみのからは、食農教育として管内小学校での大豆栽培・豆腐作り指導の紹介があった。これらに参加している人達が生き生きと活動している様子が伝わってくるものばかりであった。最近、地元産食材を活用した食育活動により、食への関心がいっそう高まり、子どもの野菜嫌いが改善されたり、自然に親しむ心が育ったりと、「豊かな人間性を育む」うえでも目立った効果があらわれていることが各種調査研究からも明らかにされつつある。そうした効果が、農と深く結びついた食育活動の中にあることをあらためて再認識する機会となった。

食育が農と深く結びつくためには、そこに地産地消をいかに取り込んでいくかがポイントとなる。大垣市でのファーマーズを中心とした地産地消の現状報告があり、小規模農家、女性・高齢者がその中心的な担い手となっていること、小規模産地の維持、安全性の確保などが課題であること、などが紹介された。そして地産地消そのものの推進や、それを取り込んだ食育活動の展開にあたり、地域内で組織間連携を強化することや、各組織がこれに対応して組織構成を見直すことも場合によっては必要であることが指摘された。量販店でも消費者ニーズに対応して地産地消を意識した契約栽培等の動きもみられるなかで、小規模産地の育成、農産物の地域内市場形成に協同組合組織がいかにかかわり、そのなかに食育をどう位置づけていくかが課題として提起されてきている。

食育活動を重要な組合員教育として位置づけ、その体験を通じて得たものを組合員どうしがつながりのなかで共有し、またそれが家庭の団欒のなかに浸透するところまで高まれば、効果は大きいと思われる。食育活動にともなう負担が特定者に集中しないよう配慮し、それを人と人との新たなつながりのなかで豊かに演出することができれば、個性的で夢のあるものになる。これを通じて、各個人が食・農に対してより多くの関心をはらう習慣が形成されれば、食の選択力も高まっていく。そのことが「豊かな人間性をはぐくむ」ことにもなり、その社会的意義は大きいといえる。

学ぶって何? ~フィンランドの教育を体験してみよう

池田 和秀 (MOI 教育研究会主宰)

1. 「フィンランドってどういう国」

フィンランドの場所はスカンジナビア半島の付け根のところにはありませんが、ではフィンランドって何と何を連想しますか?

「白夜」「森」「社会保障」「サンタクロース」「ラップランド」「湖」188000個の湖があります。「サウナ」は発祥の地なんです。「ムーミン」。「ハッキネン」F1レーサーが何人かいます。「ハイバラ」民族叙事詩、神話です。「オーロラ」オーロラがきれいな国ですね。「北欧家具」フィンランドではいろいろつくっていますね。

社会保障とか教育費がタダというと、どんなことが考えられますか? 「税金が高い」22%の消費税がありますね、生活物資は6%ですが。「人口密度が低い」フィンランドの人口は520万人です。北海道が560万人なので、北海道よりも少ないですね。国の広さは日本より1割少ないくらいで、そこに北海道より少ない人が住んでいます。そんな国の小ささが教育改革をやりやすくしたようです。教育に関わる人もみんな顔見知りなので、話しがどんどん進んでいったようです。外国企業も入っていますが、携帯電話のノキアがありますね。世界ではトップシェアを誇ります。ITが基幹産業になっています。社会保障は充実していますが、税金が高い、IT産業がさかんという姿が見えてきました。

フィンランドはいろんな世界一があります。いくつかを上げると、

◆水のきれいさ ◆環境維持力 ◆政治のクリーン度 世界一汚職の少ない国だそうです。◆報道の自由度 ◆経済競争力は2003年から2005年まで3年連続で世界一なんです。ソ連が崩壊し、失業率が16%となり、90年代に大不況を経験しているんです。その経験からIT産業に国の資源を投資し、経済成長を成し遂げてきたということです。ITを担って

いける想像力あふれる人を育てなくてはということで、1994年に教育の大改革を行い、学力世界一といわれるまでになったということです。◆女性の社会進出、女性の科学者の数、今の大統領も女性です。大



統領も首相も両方とも女性だった時期もあるということです。

◆乳幼児の死亡率、育児を支える手厚い支援があり世界で一番死亡率が低い国となっています。

フィンランドは北欧型の福祉社会であると同時に経済成長率も両立させている国であるというのが社会の姿です。こういう国の教育がどうなっているかというのが、今日のテーマです。

2. 現地で見えてきた様子

現地で見えてきた学校の様子をお話します。教育というと教育制度があって、その制度の下でどんな教育がなされているかということです。制度はどうなっているか?

私自身は3回フィンランドに取材に行きました。2006年の3月、2007年の2月、3月と行きました。

2000年と比べて、2003年のPISA(OECD生徒の学習到達度調査)のランキングで順位が上がり1位のもので出てきた。それで世界中から注目を集めるようになったわけです。小学校では一クラス20人~25人の人数です。これは法律で決まっているわけではありませんが、教育実践を重ねていく中でこの人数が、一番教育効果が上がるということになっているようです。特に一年生の算数・国語では、基礎をやる時ということで半数の12、3人の人数でやっています。

フィンランドの教育における制度面の背景をあげると、

- ①平等: 教育は無料、教材費も無料です。これは小学校から大学まで、留学生も含めて無料です。給食も無料です。郊外で5kmを超える場合はタクシーで通いますが、タクシー代も無料になります。
- ②落ちこぼれをつくらない: 特別支援教育で底辺を底上げしています。成績が悪くなる前に指導していきます。病気で休んで授業に出られなかったら、担任の先生が個別について教えるんです。全体のペースについていけない生徒は、遅れた子どもを指導する専門の先生が補習をします。
- ③何を教えるか現場に任せる: 教師は教えるプロフェッショナル、教える権限は現場にということで任されています。どこの学校でも教科書はあり、教科指導の教え方はありますが、教え方は先生によって様々です。先生は100人いれば100通りの教え方があります。では自分はどういう教え方、スタイルなのか? 強みをうまく見つけ出すことが大学での目標になるということでした。

フィンランドの学校制度は日本と同じように6・3制です。今は改革の結果9年一環教育となっています。その後は高校に進む人たちと、職業専門学校に進む人たちに分かれます。



進学率は、高校が60%、職業専門学校を含めると90%くらいです。職業専門学校に行っても大学に進むこともできます。特徴として充分学力がついていない子のために10年生もあります。また、フィンランドでは先生の立場が保障されていて、教えることに専念できるようになっています。クラブ活動は地域の社会教育の中でやられています。

フィンランドの教育に課題もあります。できない子は徹底して教えるんですが、できる子はほっとらかしなんです。なぜかというと、できるんだからほっといてもいいんじゃないかと言われる。義務教育の範囲は簡単すぎて、おもしろくない。その子たちはどう伸ばしていくか、これが課題になっているようです。子どもたちの学校に対する満足度が低いんです。いじめとか不登校の問題もあって、新自由主義的な考え方も入ってきていて、問題視する声もあるということです。

Q&A

Q:フィンランドには保育園はありますか？

A:あります。フィンランドでは就学前教育というのが特徴にもなっています。

Q:先生は一年ごとに変わるんですか？

A:学校ごとで違うようです。

Q:教科書はどうなっていますか？

A:3大出版社があって、3種類の教科書があります。教科書検定はないですね。教師の話聞いてつくられているようです。でも財政的なことがあり教室に備え付けのようです。

Q:数学的リテラシーとは？

A:単なる知識ではなく、実社会でどう応用していくか、応用力も含めた能力ということです。

Q:10年生というのは、はずかしいという意識にはならないものですか？

池田 和秀氏 プロフィール

MOI 教育研究会所属。音楽ライター。日本シベリウス協会運営委員。1967年奈良県生まれ。立命館大学一部法学部卒。フィンランドの音楽・教育をテーマに、取材・執筆活動を行っている。また、フィンランドの教育を現地取材してきた経験を踏まえてMOI教育研究会を立ち上げ、フィンランドの教育から日本の教育の未来を考えるワークショップ活動に昨秋から取り組んでいます。

A:あまりそういうことにはならないようです。落第生のような意識にならないかと聞いたら、意味がわからないようです。

Q:教科書は教室に備え付けだと、家庭ではどうやって勉強するのでしょうか？

A:ワークブックがあって、それでやっているようです。参考書も特にないようです。知識よりも別のことをフィンランドの教育では目指しているようです。

Q:英語は、小学校の何年生から教えているんですか？

A:小学校の3年生から教えているようです。小学校の4年生では第2外国語の授業があります。フィンランドの若い人たちは3ヶ国語くらいは話せるようです。

Q:全員がフィンランドの人なんですか？

A:フィンランドでは移民を受け入れているので、移民の子どもたちも多くなります。例えば日本人の子どもが多ければ、日本語で教えるクラスをつくれます。移民の人の教育も、母国語による教育を保障しています。同時にフィンランド語のサポートもします。母国語のクラスは週一時間くらいなのですが、同じことばで内容を共有できることがストレスを減らすことにつながっているようです。

3. フィンランドの小学生に挑戦

フィンランドの小学校4年生の国語の教科書にある「うそを言うことと、おおげさに言うことは、どのように違うと思いますか？」という問題をちょっと考えてみましょう。辞書で調べてみることもできますが、ことばの意味の違いはそれでわかりませんが、それでは答えにはなりません。考えるきっかけ、グループの中で話し合い、誰にでもわかりやすいものにしていく、これだったらみんなわかるねというものにしていくためのものです。

国語教科書の目的は、生徒に考えさせることです。知識よりも考えるプロセスが大事なんです。自分の頭で考えさせていく、教師はそれをサポートします。

私とあなたという関係があって、あなたが何を考えているのかを理解して、その上で考えていく。これがフィンランドで考えているコミュニケーションなんです。なぜを聞くことで、相手の意見を具体化し、相手を明らかにしていく。これが考え方の基礎になっています。

2007年11月17日、名古屋・伏見ライフプラザにおいて開催されたワークショップ“学ぶって何？”(地域と協同の研究センター主催)から、ファシリテーターの池田和秀さんのお話しを中心に紹介しました。(文責 大島三津夫)



地域福祉を支える市民協同パネル

第2回パネル公開企画「地域の実態に迫る」

○日時 11月23日(金)10:30~14:00 ○会場 生協生活文化会館 2階 参加19人

第1回公開パネル「くらしの実像に迫る」では、「家族」がキーワードとなり、家族の暮らしがくずれ新しい家族像が生まれてきていることがわかりました。今回はそんな家族を取り巻く地域社会に問われていることは何かの報告を聞き、意見交流しました。報告いただいた内容の一部を紹介します。

① ボランティア配食グループ「月木会」(名古屋市千種区)での取り組みから

月木会 溝口弘子さん

「くらしすけあいの会」が93年から「高齢者向けの配食」を模擬的に行なっていたことや、千種社協からの誘いをうけたことがきっかけとなり、2000年、千種社協の調理実習室で始まる。2001年から名古屋市の委託となるが、2003年の介護保険制度発足により、制度に基づく指定事業者としてではなく、ボランティアとして活動することを選択。

目的は、①高齢者の食の一端を支えることにより、自立を促す、②安否確認を含めた利用者とのふれあい、③配食をとおして、高齢者の実情に触れながら声にしていくこと。食材は、めいきん生協から調達している。利用者からのおいしいという感想やねぎらいの言葉、手紙や電話や伝言、配達時に交わす言葉が、やりがいを生んでいる。食を扱う生協への力の発揮をめいきん生協に期待したい。

② グループホーム「かがやき」の5年と地域とのかかわり

グループホーム「かがやき」 小林一三さん

グループホームは名古屋市内で131ヶ所、2147名の定員となっています。「かがやき」では1階6名の2階で12名の定員です。入居者は子どもたちが結婚して、大部分はお母さんが一人暮らしになり、認知症になり火の始末ができなくなって入ってみえます。「かがやき」に入居されると、家族との関係が変わります。「かがやき」では家族の方々が気軽に来ていただける信頼関係づくりを心がけています。

地域との関係も大切にし、ホーム建設の時に挨拶に回り、完成した時は内覧会をやりました。鍵もかけず、閉じ込められているという雰囲気にならないようにしています。地域に「かがやきニュース」を届け、認知症についての講座も開催しています。自分自身が入りたくなるようなホームづくりを目指しています。社会との緊張関係も大切に「かがやき乙女合唱団」による「かがやき音頭」を歌いCDも出します。



③ 地域の実態に迫る

東郷町社会福祉協議会 松下紀夫さん

平成18年から、歳末たすけあい事業として独居の方を対象に、大掃除のサービスとおせちの宅配をどちらか選んでもらうことをやり、めいきん生協は「あんきネット」など取り組まれているので、おせちを利用させてもらいました。民生委員さんから案内し、社会福祉協議会で注文をまとめ独居の方へ担当民生委員が届けました。他に社会福祉協議会として、独居高齢者花見事業、福祉フェスティバルなど行っています。

介護保険制度外の相談についても、地域の事業所と連携をとりながら応じています。また、ボランティアセンター機能としてボランティアと施設・事業書間の調整を行なっています。東郷町では地域サポーター事業に取り組んでいます。地域を支えるために、防災や日ごろの見守り活動を行う地域サポーターとして70名くらい登録していただいています。地域の違いもあるので3つのモデル地区もつくり、そこで必要とされる福祉は何だろうと相談する場をつくっています。

④ 会員の地域調査の報告

三重県名張市について有我恵さんから、南区(名古屋市)の子育て支援について山崎すずよさんから、小牧市について松浦明美さんから報告があり交流しました。

第3回地域福祉を支える市民協同パネル

公開企画「地域協同と支え手・担い手の課題」

- 日時 2月22日(金) 地
 - 会場 めいきん生協生活文化会館(予定)
- どなたでも参加いただけます。申込み、お問い合わせは研究センター事務局(椋木)まで。

パネル
レポート

組合員と職員の接点パネル (地域担当の仕事を考える交流会)

第3回 担当者の仕事を考える交流会の報告

○ 日時 2007年11月24日(土) 14時～17時 ○ 会場 労働会館(金山) ○ 参加者 12名

今回は、コープみえの芳岡さんの事例を基に、職員と組合員の接し方がどう変わってきたか、そして、どうあってほしいと思っているかを出し合い、各自が、得た感想なり考えなりを、自分自身の「気付き」としました。

【芳岡直興さんのプロフィール】

出身は大阪。昭和58年生まれ。コープみえに入協し1年7ヶ月。伊賀上野地域を担当している。寒暖の差が激しい山間部の地域。名阪国道が走っている。週5日の配達だったが、最近1日仲間づくり活動日ができた。

【芳岡さん担当地区の特徴】

生協の加入率20%、配達地域の留守班6割、お年寄り多く、あまり荷受けにも出てくることができない人が多い。

【芳岡さんが配達時に心掛けていること】

留守班が多いので、コミュニケーションをとるために、自分の趣味やデート、研修の内容などを記載した「ヨッシィの独り言」を月3回ほど書いて配っている。先日交通安全フェスティバルで優勝し、ニュースに載せたところ「おめでとー」とたくさんの方から言われた。荷受に出てくる90歳のおばあちゃんがいるが、ヨッシィの独り言を創刊号からとってしてくれる。先日荷物を家に運んであげたが、自分の写真を入れた創刊号がつるされており、寝る前に「おやすみ」と言ってくれていると聞いた。

【芳岡さんの仕事への思い】

あいさつは気を配っている。学生時代3年間コンビニでアルバイトをし、店長から深夜も元気なあいさつをしていると強盗の予防にもなると指導を受け、配達も元気なあいさつを心がけている。休憩をとるのも大変で、しんどい時もあるけど、元気に挨拶すると、疲れも吹っ飛ぶ。組合員の話も良く聴くようにしている。信頼して「ありがとう」と言ってくれるので、ボイスとして確実に報告するようにしている。職場では「きつい」とか「給料が安い」という声もあるが、一番大事なのは「仕事を楽しむ」ということだと思う。そのためには知識が必要で、与えてくれるのは組合員だと思う。思いもよらない質問があり、これに答えるために、自分も勉強することが自分の知識につながり面白い。ニュースのネタは自分で考えるが、困った時は、実家でくらしているのとお母さんから料理を聞いたりする。ニュースも早めには書ければいいが、いつも日曜の夜に書いている。

【交流から】

●芳岡さんが見習った先輩から学んだことは？

「なんとかなる！」と頑張ること！一人の先輩は、エネルギーッシュな人。その人がため息をついたところを見たことがないくらい。40代の“仕事と違うな人生と思え”と朝の朝礼で紙に書いてみんなに見せる。もう1人は聴き上手な人。何もわからない時間いてくれる人。癒し系でもの静かだが、ちゃんと話ができていくタイプ。

●楽しくなったのはいつ頃？知恵をもらって、うれしくなったのは？

センターにハイテンションの人がいたので楽しかった。また、別個に通信教育を3つほど受けたりもした。先輩に楽しくさせてもらっていたので、これからは自分から楽しくしていこうと思っている。

●ニュースを出していてうれしかったことは？

90歳のおばあちゃんのことばはうれしかった。かわいいおばあちゃん。引き継いだ担当から、この班ではそのおばあちゃんの足が悪いので、おばあちゃんのみだけ分けて運んでと先輩から言われていた。最初は特定の人だけにそんなことをしてもいいののかと思った。でも、おばあちゃんが“悪いなあ、あとでいいんやで”と言いいながら、片付けていると足が悪いのに、空シッパーを荷台に乗せてくれたりする。そんな姿を見て気持ちが伝わってくると、そんな風に思っていた自分が恥ずかしくなる。

- 3点の気づきがあったように思う。一つは、楽しくやろうとしていることを自分でやろうとしていた。先輩や組合員から学ぶ姿勢が自然と出てくるのがよかった。二つ目は、作業指示書やマニュアルから学ぶことに加えて、先輩の存在から学ぶ姿勢がよかった。三目は、楽しくなるのは知ることだ、仕事人としての発展スパイラルが出来る関係ができていたのがよかった。生協の場合、それは組合員との一見、マイナスに見えることから、良い点のみを、そこを評価し、学ぶ姿勢がよかった。今、大学の徒弟制度が見直されて、先輩の位置付けが見直されている。

第4回 担当者の仕事を考える交流会 公開企画「パート職員として働く」

- 日時 1月26日(土)午後2時～4時
- 会場 JRぎふ駅 16プラザ

どなたでも参加いただけます。申込み、お問い合わせは研究センター事務局(森川)まで。



第1回環境パネル公開企画

環境報告書・環境活動の交流会

日程: 2007年11月23日(金)

13時30分

～16時30分

会場: 伏見ライフプラザ

12階第1研修室

プログラム

13:30 開会

参加者の自己紹介

○ 環境報告書について

しげん再生ネット 津坂 賢一さん

- 各生協の環境報告書から
めいきん生協・みかわ市民生協
コープぎふ・コープみえ
東海コープ事業連合 各職員さん

○ 大学生協の取組

静岡大学 田口 大輔さん

○ 交流タイム

二グループにわかれて

○ グループの発表

感想的なまとめ

16:30 終了

＜大学生協からの報告＞

大学生協東海地域センターの方から、子どものころ生協の可児店におかあさんにつれられて行っていたという学生の田口大輔さんが報告しました。

10月20日に第2回「私の青空 八百津の森づくり」の取組みがされ、総勢335名が参加しました。八百津の森にバスで集合し、大学の先生の話・青空塾、間伐作業、ライブコンサートと多彩な企画を楽しみ交流し合いました。

主催は大学生協東海地域センター。実行委員会には全日空・ZIPFMとプロスノーボーダーがつくる団体が入っています。岐阜県と八百津町、国土交通省、中部国際空港が後援しています。

地域センター事務局長 葛谷光雄さんのお話

植林をやりたいんですが、植林だと5月になるんです。新学期と重なり、5月は難しいため10月になり、植林ではなく間伐になりました。学生主体で準備し、スポンサーとして全日空とかハウスメーカー、ジップFMが協力し、八百津町が行政として関わるといって形が始まりました。企業はバス代とか印刷物で協力しています。実行委員会形式で準備しています。なぜ八百津町かという、町長が町おこしとして積極的にアプローチしてきたこともあり、決まりました。岐阜県も協力的です。森林組合にサポートしてもらっています。八百津町でバックアップの体制もできました。今年は2回目でプロのスポーツ選手も参加し、先日栄で行ったアースフェスタではアースアスリートの、ウインタースポーツをするみなさんが、温暖化で雪が降らなくなると、できなくなるということで、雪を持ってきてゲレンデをつくりました。ネットワークを組み合わせながら2年目になります。

みずみずしい体験をはつらつと報告され、参加者一同みずみずしい感性にふれたように思いました。



しげん再生ネット 津坂賢一さんのお話

津坂さんは、めいきん生協の職員として働きつつも、環境問題の勉強や環境グループに参加。生協総合研究所の研究助成をうけまとめたことも。それらの過程をへて、事業者としての生協が環境負荷を削減する意義やその手法としてISOの導入を役職者に提言した。津坂さん自身が担当となり、導入のための諸準備をしてきた。「環境報告書」は事業者が自らの事業活動に伴う環境配慮の状況について公表しているもの。事業にかかわる内部の人や提携者・市民に伝え、そのことを通して地球環境に配慮できる社会への形成に参加することをめざしている。

津坂さんの話は熱がこもり、今の仕事である「しげん再生ネット」の説明にも熱が入りました。



八百津での初めての間伐体験

委託研究中間報告

「子どもと一緒にスローフードを見直す」

鷲見孝子先生 (東海女子短期大学) に聞く

質問 今回の委託研究では、まず親子の料理教室の開催が計画されていますが、どんなことが行われているのですか？

委託研究に取り組んでいるのは、地域の方々と「食」について共に考え、より健康的な生活が実現できることを願っている、東海女子短期大学食物栄養学科の教員グループです。具体的な企画としては、3回の料理教室を実施してきました。

第1回 6月30日 織姫様、彦星様をお迎えしましょう！

第2回 9月22日 家族でお月見してみませんか！

第3回 12月8日 みんな一緒にクリスマスパーティー

各回、4歳から小学校低学年の子供さんと親御さん、15組前後の参加で、東海女子短期大学の調理室を使って開催しています。

第1回は、各務原特産のにんじん(全国13位の生産量)と岐阜県特産の枝豆(岐阜市の生産量は全国6位)を使って、七夕にちなんだ行事食を作りました。

まず「食品のちしきをふかめよう！」のテーマで、次のような項目を示し、実際に観察しながら親子で相談して記入してもらいました。

にんじんについては、にんじんの葉っぱはなんまいありますか？どんなにおいが出ますか？葉っぱはどんなかたちですか？にんじんを水に入れるとしずむかな？えだまめについては、一本の枝には、いったいいくつの豆がついていますか？えだまめにさわって手ざわりをひょうげんしてみましょう。えだまめがおとなになると、どのまめになるでしょうか、次の9種類の豆からえらんでください(お母さんには豆の種類あてをしていただきました)といった具合に、まず地元の特産品に関心を持ってもらい、実際の料理に入りました。

この日は、「一口サイズのそうめん」(子供たちにはゆでた麺を洗いあげて盛りつけてもらい、板ずりしたきゅうりを輪切りにしてもらいます)、「肉団子のはちみつ入り煮物」(子供たちには肉団子の材料をこねて団子にし、なすに包丁を入れて網代切りにしてもらいます)、「にんじんカクテルゼリー」(子供たちには、にんじんジュースとゼラチンの液に味付けをしグラスに流し込むことと、ホイップクリームをつくってもらいます)をそれぞれ作りました。学生の協力もえながら、親子であるいは子供自身で挑戦します。できた料理はみんなと一緒に食べます。

第2回の9月の行事食は月見にちなんだ「きぬかつぎ」 「月見だんご」づくりです。実習としては、ヌルヌルした里芋を子供が安全に調理できる基本的な技術や、皮を手でむくこと

を体験し、だんごづくりでは同じ大きさに丸めることや、串にさすことなどを経験しました。そして、この体験をもとに実際は各家庭で月見を楽しみましょうと呼びかけました。



質問 料理教室では、いろいろな工夫がされているようですが、それらを通してどんなことを目指されているのですか？

私たちは、1) 地域の特産農産物を用いた料理を親子で作ることで、食材の栄養特性や機能性ばかりでなく、生産の歴史や文化などの情報や「食べ物」の大切さを伝えること、2) 出来上がった料理と一緒に食することで参加者同士の「和」を広げ、3) 美味しく食することができることの素晴らしさに感謝することをめざしています。

この料理教室では、地域の特産物の収穫時期にあわせ伝統行事と関連づけた内容とすることで、大人も日本の文化について振り返って認識をもつきっかけにできたらと考えています。

今年は里芋の収穫より実施時期が少し早く、葉っぱのついた里芋の姿を見られなかったなどの反省もありますが、土の付いた里芋を洗うのに、顔に水しぶきをあびながら、親たちの励ましを受けて一生懸命取り組んでいた子供達の表情はいきいきしていました。

質問 委託研究の〆切も2月末と近づいてきましたが、どんなご予定ですか？

第3回目は、12月8日に岐阜県産の野菜、畜産物などを使ったクリスマスに楽しめる料理を作りました。いま、そのまとめをしているところです。

この料理教室は、昨年度からおこなっているものですが、今年度は2年目の料理教室として、3回の料理教室の経験をまとめ、2月には報告書を提出する予定です。

ありがとうございました。親子での体験を通し、いろいろな気づきや感動をひきだす工夫を研究者の方々がしていられるように伝わってきますね。報告書は、企画の舞台裏にあるものも提示いただくことで、いま必要とされている食育について、たくさんヒントが盛り込まれたものになることを期待しています。よろしく願い致します。



平成18年度「子どもの学習費調査」

文部科学省生涯学習政策局調査企画課

この調査は、子どもを公立又は私立の学校に通学させている保護者が、子どもの学校教育及び学校外活動のために支出した経費並びに世帯の年間収入の実態をとらえ、教育に関する国の諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として隔年に実施されているもので、今回の調査は平成18年4月1日～平成19年3月31日の1年間の費用に関して調査したもの(保護者調査の回収率:最高・公立幼稚園95.2%～最低・私立高校78.4%)。

1. 幼稚園から高等学校卒業まで15年間の学習費総額(学校教育費・学校給食費・学校外活動費の合計)

各学年毎の学習費総額をケース毎に単純合計した金額は下表の通りとなった。すべて公立の場合の570万円9千円と、すべて私立の場合の1,678万4千円とでは2.9倍の違いが生まれることになる。

区分	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	学習費総額計(円)
ケース1	公	公	公	公	5,709,177
ケース2	私	公	公	公	6,590,672
ケース3	公	公	公	私	7,278,858
ケース4	私	公	公	私	8,160,353
ケース5	私	公	私	私	10,546,559
ケース6	私	私	私	私	16,783,816
公立(円)	729,962	2,003,070	1,414,387	1,561,758	
私立(円)	1,611,457	8,240,327	3,800,593	3,131,439	

2. 学校の公私種別にみた世帯の年間収入と学習費総額の関係

右のグラフは、世帯収入を400万円未満、400万～600万円未満、600万～800万円未満、800万～1000万円未満、1000万～1200万円未満、1200万円以上の6区分毎の学習費総額を示したもの。公私種別での学習費総額の差が顕著である点に加え、世帯収入が増加するほど学習費総額も増加している。

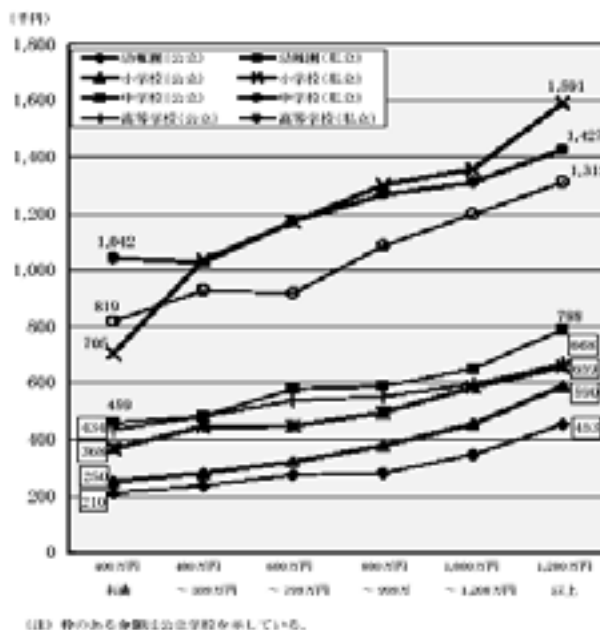
学習費総額は、学校教育費・学校給食費・学校外活動費の合計であるが、学校外活動費はさらに①補助学習費:各家庭での学習机や参考書等の購入費、家庭教師・通信教育・学習塾等の費用と、②その他の学校外活動費:稽古事や学習活動、スポーツ・文化活動の費用に区分され集計されているが、ここでも世帯収入と各費用との間には同様な相関が確認できる。

格差の世代間継承が、格差問題の一つとして挙げられているが、教育がもつ“社会的なこと”をこうした実態から、どう考えるかの検討素材となっている。

調査結果の詳細は、文部科学省のホームページで見ることができる。

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/006/07120312.htm

図6-1 世帯の年間収入別、学校種別学習費総額



INDEX	
巻頭エッセー「農と深く結びついた食育のあり方を考える」	
岐阜大学応用生物科学部 荒井 聡	1
ワークショップ「学ぶって何？」 池田和秀	2-3
パネル報告 ① 地域福祉を支える市民協同	4
② 組合員と職員の接点	5
③ 環境報告書・環境活動交流	6
委託研究中間報告「子どもと一緒にスロフード」 鷲見孝子	7
情報ファイル 子どもの学習費調査報告	8

2007年12月25日(偶数月25日発行)
 定価200円
 (税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)
 発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
 代表理事 水野隼人
 〒464-0824 名古屋市中千種区稲舟通1-39
 TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315
 E-mail AEL03416@nifty.com
 HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>